

Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 86 2010. 12. 21.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

シリーズ『リニア中央新幹線ってどうなの?』⑩

リニア中央新幹線の建設に伴う環境面への影響は!?

現在、予想されるリニア中央新幹線の建設に伴う環境面への影響は「水源問題」「トンネル掘削から出る廃土」「生態系への影響」など様々あります。

JR東海が計画しているリニア中央新幹線の南アルプスルートでは東京-名古屋間で約8割、東京-大阪間で約7割がトンネル区間で計画されています。そのトンネルを建設する場合には様々な技術的問題が予想されますが、「山は水がめ」というトンネル技術者がいるくらい山にトンネルを掘削する場合は異常出水ということが問題になります。

異常出水の例として、上越新幹線の中山トンネルがあり、このトンネル掘削では出水対策を様々試して建設を進めたのですが、大きな出水事故が3回も発生して2回もルートの変更を余儀なくされました。

そのため開業が遅れただけでなくトンネル内に曲線半径1500mの急カーブが出来てしまい、現在でも最高速度が抑制されています。そして、工事で水源の水位が下がり付近の地区に被害を出しました。

リニア実験線を延伸させるだけでも水源問題発生!!

上記のような水源問題は、上越新幹線建設の頃よりトンネル掘削技術が格段に進んだ現在でも起きており、リニア中央新幹線の一部になるとも言われている山梨リニア実験線でも発生しています。

昨年6月山梨県笛吹市において、簡易水道の水源とその近くを流れる川が枯渇していることが報道されました。この原因は山梨リニア実験線の延伸に伴うトンネル工事が原因とされ、同工事を行う鉄道建設・運輸施設整備支援機構が簡易水道と上水道と接続するという応急策を行い、簡易水道利用者だった人たちの上水道の使用料金を負担しているそうです。また、同じ水源で農業用水なども干上がったためにトンネル内での湧き水を川に戻す工事も行ったそうです。

このようにリニア中央新幹線の建設が本格的に始まる前の段階でもトンネル建設による水源問題が起きており、対策に費用(建設費アップ)も掛かります。従って、JR東海が計画している南アルプスを貫くルートでトンネルを建設した場合に水源(地下水)などの環境に及ぼす影響が大変懸念されます。